

「新修港区史」と「(仮称)新・港区史」の構成比較表

○自然史・原始編	
「新修港区史」構成	
第一章 自然の歴史	
第一節 地形の変化	(一) 地形とそれを作る地層
	(二) 地形の変遷
第二節 生物の変遷	(一) 地質時代の生物
	(二) 古代の生物
	(三) 寒暖の歴史
	(四) 潜在生物相
	(五) 港区内の沿海性植物
	(六) 港区内の現存植物
	(七) 港区内の動物
	(八) 港区内の沿海性植物
	(九) 港区内の現存植物
	(十) 港区内の動物
第二章 先史時代	
序説	
第一節 先史時代の概観	
	(一) 先石器時代
	(二) 縄文時代
	(三) 弥生時代
	(四) 古墳時代
第二節 港区内の主要遺跡について	(一) 縄文時代の遺跡
	(二) 弥生時代の遺跡
	(三) 古墳時代の遺跡
	(四) 歴史時代の遺跡——麻布台一丁目
	(五) 港区の地形と遺跡との相関関係
「(仮称)新・港区史」構成	
自然史・原始編 (港区の自然)	
第一章 港区の地形と地質	
	第一節 港区の地形の概要・東京湾に面した武蔵野台地東端の地形
	第二節 港区の地下と地質
第二章 港区の気候と気象	
	第一節 世界や日本における港区の気候と気象
	第二節 港区における気象の特徴
	第三節 気候の変化・変動
	第四節 港区における気象資料と気象災害情報
第三章 港区の生物	
	第一節 港区の生物
	第二節 港区に生息する生物
第四章 自然の歴史と人びと	
	第一節 (検討中)
	第二節 (検討中)
自然史・原始編 (港区の原始)	
第一章 港区の考古学研究	
	第一節 近代考古学史の人びとと港区
	第二節 大学と東京都教育庁の調査
	第三節 行政調査の時代
第二章 港区の旧石器時代	
	第一節 旧石器時代の自然環境
	第二節 旧石器時代のくらし
	第三節 港区の旧石器時代遺跡
	第四節 旧石器時代の港区
第三章 港区の縄文時代	
	第一節 縄文時代の自然環境
	第二節 縄文時代のくらしと文化
	第三節 縄文時代の港区
第四章 港区の弥生時代	
	第一節 弥生時代の自然環境
	第二節 弥生時代のくらしと社会
	第三節 港区の弥生時代遺跡
	第四節 弥生時代の港区

○古代編・中世編	
「新修港区史」構成	
第三章 古代	
第一節 律令制以前の港区地域	
第二節 律令制下の港区地域	(一) 武蔵国の設置
	(二) 豊島郡と荏原郡
	(三) 駅路と駅家
	(四) 式内稲田神社
第三節 桜田・御田郷と飯倉御厨(みくりや)	(一) 桜田郷
	(二) 御田郷
	(三) 飯倉御厨
第四節 古代の港区地域の景観	(一) 『万葉集』にみる古代の武蔵国
	(二) 『延喜式』にみる武蔵国の物産
	(三) 『更科日記』の竹芝物語
第五節 平安末の港区とその周辺	(一) 平将門の乱
	(二) 『今昔物語』にみる武蔵国と港区
	(三) 武蔵七党
第四章 中世	
第一節 鎌倉幕府の成立と江戸氏	
第二節 鎌倉時代の武蔵国守護と国司	
第三節 鎌倉時代の武蔵国の荘園と港区	(一) 武蔵国の荘園
	(二) 区内に残る鎌倉時代の伝承
	(三) 鎌倉時代までに創建された区内の古社寺
第四節 南北朝時代の武蔵国と港区	(一) 室町幕府初期の関東経略
	(二) 関東公方・足利氏満・清兼・持氏時代
	(三) 太田道灌の登場と江戸城
第五節 後北条氏時代の武蔵国と港区	(一) 両上杉氏の越前と後北条氏の台頭
	(二) 『小田原衆所領役帳』
第六節 港区に現存する中世文書	(一) 麻布番福寺所蔵文書について
	(二) 番福寺所蔵文書の解説
「(仮称)新・港区史」構成	
古代編	
第一章 港区の古墳時代	
	第一節 律令制以前の港区地域
	第二節 古墳時代のむらぶらこらし
	第三節 芝山古墳と円墳群
	第四節 港区の古墳時代遺跡
第二章 律令制下の港区	
	第一節 考古学から見た古代の港区域概要
	第二節 武蔵国の設置
	第三節 豊島郡と荏原郡
	第四節 式内稲田神社
第三章 桜田・御田郷と飯倉御厨	
	第一節 桜田郷
	第二節 御田郷
	第三節 飯倉御厨
第四章 古代の港区地域の景観	
	第一節 『万葉集』にみる古代の武蔵国
	第二節 『延喜式』にみる武蔵国の物産
	第三節 『更科日記』の竹芝物語
第五章 平安末の港区とその周辺	
	第一節 平将門の乱
	第二節 『今昔物語』にみる武蔵国と港区
中世編	
第一章 鎌倉時代	
	第一節 武蔵七党
	第二節 南関東の中世荘園
第二章 室町時代	
	第一節 南北朝の動乱と南関東
	第二節 小田原北条氏と南関東
	第三節 港区の城館跡について
第三章 中世寺院	
	第一節 東園の真宗と阿佐布門徒
	第二節 浄土宗の展開と増上寺
「新修港区史」構成	
第五章 近代	
第一節 明治前期の港区	(一) 江戸から東京へ
	(二) 行政上の変化
	(三) 名主制度の廃止と五十番組 大区小区制の施行
	(四) 民政対策の展開
	(五) 武家地の変遷
	(六) 新しい教育の出現
	(七) 転換期の産業経済
	(八) 文明開化の諸相
	(九) 人口の動態
	(十) 芝・麻布・赤坂三区の誕生
第二節 明治後期の港区	(一) 市区改正と市街の整備
	(二) 近代工業の形成と特殊産業の発展
	(三) 近代商業の発展
	(四) 整備される鉄道網
	(五) 日清・日露戦争と兵營の街
	(六) 山の手の邸宅地
第三節 大正期の港区	(一) 明治の終焉(えん)と大正のはじまり
	(二) 大正初期の市街概観
	(三) 震災前の産業経済
	(四) 大正期の交通
	(五) 大正初期の学校教育
	(六) 欧州大戦と米騒動
	(七) 関東大震災
第四節 震災復興と区内の発展	(一) 震災復興
	(二) 震災後の交通
	(三) 震災後の産業経済
	(四) 復興後の世相と港区
	(五) 大東京の発展と区内の種々相
	(六) 昭和恐慌後の区内労働界
第五節 戦時下の区民生活	(一) 満州事変から第二次世界大戦へ
	(二) 戦時下の区民生活
	(三) 戦災
「(仮称)新・港区史」構成	
近代編	
第一章 明治前期	
	第一節 土地利用(都市計画)
	第二節 政治・行政
	第三節 教育
	第四節 経済
	第五節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第六節 宗教
	第七節 兵事
第二章 明治後期	
	第一節 土地利用(都市計画)
	第二節 政治・行政
	第三節 教育
	第四節 経済
	第五節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第六節 宗教
	第七節 兵事
第三章 戦間期(大正・昭和)	
	第一節 土地利用
	第二節 政治・行政
	第三節 教育
	第四節 経済
	第五節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第六節 宗教
	第七節 兵事
第四章 戦時体制	
	第一節 土地利用
	第二節 政治・行政
	第三節 戦時の生活と区民
	第四節 教育
	第五節 経済
	第六節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第七節 宗教
	第八節 兵事
第五章 文化と文化財	
	第一節 文化
	第二節 文化財

○近世編	
「新修港区史」構成	
第五章 近世	
第一節 江戸の形成と港区地域	(一) 江戸の範囲
	(二) 江戸の都市構成とその形成過程
	(三) 港区地域の形成過程
	(四) 江戸の市政と港区地域
第二節 武家地の構造	(一) 直参と大名
	(二) 旗本・御家人屋敷
	(三) 大名屋敷
第三節 住民構成とその背景——町方の構成	(一) 人口と住民構成
	(二) 地域と商業——「江戸商人前カード」から
第四節 寺社とその周辺	(一) 寺社の創建と移転
	(二) 門前町屋の形成
	(三) 門前町のにぎわい＝開帳
	(四) 庶民の娯楽と楽しみ
	(五) 武家の教育と庶民の教育
	(六) 文人たちの世界
第五節 府内・府外境界地域における町と村	(一) 在・町混在地域の形成と形態
	(二) 港区地域と周辺の関係
第六節 幕末史跡と周辺	(一) 外国公館が置かれた寺院等
	(二) その他の幕末史跡
「(仮称)新・港区史」構成	
近世編	
序章 近世の港区	
	第一節 近世のはじまりと江戸の成立
	第二節 身分別居住による分節的構造
	第三節 中心部からの展開
	第四節 港区の地域ごとの特色
	第五節 港区の幕末
	第六節 近世遺跡の概要
第一章 初期の都市開発	
	第一節 初期の都市開発
	第二節 江戸のまちづくり
第二章 武家	
	第一節 大名屋敷
	第二節 旗本・御家人屋敷
	第三節 幕末下の旗本・武家人屋敷
	第四節 赤坂の武家屋敷について
	第五節 整備された武家屋敷と町屋
第三章 寺社	
	第一節 寺院組織
	第二節 寺院と植家
	第三節 大寺院の空間構造と社会(増上寺)
	第四節 寺社の空間構造
	第五節 神社の社会的展開
	第六節 整備された寺院跡
第四章 町人・村落	
	第一節 町の構造
	第二節 町屋敷の諸相
	第三節 商業のにぎわい
	第四節 場末地域
	第五節 整備された町屋
第五章 文化	
	第一節 浮世絵を産む「場」としての芝居界
	第二節 年中行事
	第三節 寺社参詣・願掛け・信仰・納札・花見
	第四節 祭礼
	第五節 寺社の真行
	第六節 祭り場の賑わい
	第七節 絵馬・灯籠・水次桶
	第八節 教育
第六章 幕末	
	第一節 幕末の外国公使館
	第二節 品川台場と沿岸部の諸藩邸内台場

○近代編	
「新修港区史」構成	
第六章 近代	
第一節 明治前期の港区	(一) 江戸から東京へ
	(二) 行政上の変化
	(三) 名主制度の廃止と五十番組 大区小区制の施行
	(四) 民政対策の展開
	(五) 武家地の変遷
	(六) 新しい教育の出現
	(七) 転換期の産業経済
	(八) 文明開化の諸相
	(九) 人口の動態
	(十) 芝・麻布・赤坂三区の誕生
第二節 明治後期の港区	(一) 市区改正と市街の整備
	(二) 近代工業の形成と特殊産業の発展
	(三) 近代商業の発展
	(四) 整備される鉄道網
	(五) 日清・日露戦争と兵營の街
	(六) 山の手の邸宅地
第三節 大正期の港区	(一) 明治の終焉(えん)と大正のはじまり
	(二) 大正初期の市街概観
	(三) 震災前の産業経済
	(四) 大正期の交通
	(五) 大正初期の学校教育
	(六) 欧州大戦と米騒動
	(七) 関東大震災
第四節 震災復興と区内の発展	(一) 震災復興
	(二) 震災後の交通
	(三) 震災後の産業経済
	(四) 復興後の世相と港区
	(五) 大東京の発展と区内の種々相
	(六) 昭和恐慌後の区内労働界
第五節 戦時下の区民生活	(一) 満州事変から第二次世界大戦へ
	(二) 戦時下の区民生活
	(三) 戦災
「(仮称)新・港区史」構成	
近代編	
第一章 明治前期	
	第一節 土地利用(都市計画)
	第二節 政治・行政
	第三節 教育
	第四節 経済
	第五節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第六節 宗教
	第七節 兵事
第二章 明治後期	
	第一節 土地利用(都市計画)
	第二節 政治・行政
	第三節 教育
	第四節 経済
	第五節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第六節 宗教
	第七節 兵事
第三章 戦間期(大正・昭和)	
	第一節 土地利用
	第二節 政治・行政
	第三節 戦時の生活と区民
	第四節 教育
	第五節 経済
	第六節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第七節 宗教
	第八節 兵事
第四章 戦時体制	
	第一節 土地利用
	第二節 政治・行政
	第三節 戦時の生活と区民
	第四節 教育
	第五節 経済
	第六節 公安・衛生・社会事業(消防関係)
	第七節 宗教
	第八節 兵事
第五章 文化と文化財	
	第一節 文化
	第二節 文化財

「新修港区史」と「(仮称)新・港区史」の構成比較表

○現代編	
「新修港区史」構成	「(仮称)新・港区史」構成
第2編 (現代)	現代編
第一章 市街の変貌と生活の諸相	序章 戦後復興から国際都市へのあゆみ
第一節 廃墟の街と生活	序章 概説
第二節 復興への足音	第二節 2つのオリンピックと港区
第三節 激変する市街	第二節 港区の街の変化
第四節 苦悶する街の精神風景	第三節 国際都市、港区
第二章 人口と社会	第四節 区民の暮らしの変化(座談会)
第一節 戦前と戦後の特徴	第一節 港区の誕生
第二節 港区の人口と世帯数	第一節 終戦と都制改革
第三節 港区の人口動態からみた社会構造	第二節 東京都区域整理委員会の発足
第三章 議会と行政	第三節 各区の動向
第一節 区域の再編と港区の誕生	第四節 港区の発足
第二節 地方自治法の施行と港区政	第二章 人口と社会
第三節 昭和二十七年の地方自治法改正	第一節 戦後の人口変遷について
第四節 高度経済成長の開始と港区政	第二節 港区の人口
第五節 昭和四十年代の港区政	第三節 人口動態から見る港区の社会
第六節 区長公選制の実現—基礎自治体へ向けて	第四節 人口と計画行政
第四章 税財政と予算	第三章 議会と行政
第一節 地方自治法の制定と区財政	第二節 復興から高度経済成長下の港区 (1945年～1974年)
第二節 ショウブ勧告と特別区税財政制度の改革	第二節 区長公選と安定成長下の港区 (1975年～1996年)
第三節 「制限自治区」への後退	第三節 人口増時代の港区 (1997年～2020年)
第四節 高度経済成長長期の区財政	第四章 税財政
第五節 都行政の行詰まりと事務移管	第一節 終戦から高度成長前夜まで
第六節 福祉施策の拡大とインフレの進行	第二節 高度成長期
第七節 特別区制度の改正と不況	第三節 高度成長の終焉から安定成長期まで
第五章 環境と安全	第四節 バブル経済からその崩壊まで
第一節 公害と災害	第五節 デフレ経済期から現代まで
第二節 緑化・公園	第五章 環境
第三節 上・下水道、清掃	第一節 生活環境
第四節 警察と消防	第二節 大気・エネルギー
第六章 産業と流通	第三節 緑化・生物
はじめに	第六章 防災と生活安全
第一節 東京の経済とその概括的特徴	第一節 港区と生活安全 (警察・治安行政)
第二節 港区の一般的経済の動き	第二節 消防・消防団
第三節 港区の産業と流通(現況)	第三節 震災関連
第四節 港区の中小企業と行政の対応	第七章 産業と労働
第七章 教育・文化	第二節 東京の経済とその概括的特徴
第一節 学校教育	第二節 港区の一般的経済の動き
第二節 社会教育	第三節 港区の産業と流通(現況)
第八章 労働と福祉	第四節 港区の中小企業と行政の対応
第一節 労働組合の結成	第五節 港区の産業と開発
第二節 全国組織の創設	第八章 教育と文化
第三節 激化する労働攻勢	第一節 学校教育
第四節 労働運動の発展と推移	第二節 社会教育
第五節 社会福祉	第三節 外国語学校教育
第九章 町域の歴史	第四節 文化施設
はじめに	第九章 福祉
区内各町名の起原・移り変わり	第一節 戦後混乱期の概況
	第二節 戦後復興期 (福祉六法の整備)
	第三節 高度経済成長期 (福祉六法の整備)
	第四節 高齢化社会 (福祉の普遍化)
	第五節 高齢社会、少子社会 (福祉の市場化)
	第十章 衛生
	第一節 生活衛生
	第二節 保健予防
	第三節 健康推進
	第四節 労働衛生
	第五節 水道・下水道事業
	第十一章 町域の歴史
	第一節 町内会・自治会の再出発
	第二節 区内町内会・自治会の実相
	第三節 港区行政との関わり